

確かな技術をもった職人になりたい



新 社会人

日本工学院北海道専門学校
建築学科・2年生

屋木一暁さん

室蘭工業高校在学時に建築関係の仕事に就きたいと考えるようになり、日本工学院北海道専門学校に進学。市内の建築板金工事会社に就職が内定した。

高校生の時に建築の勉強をしたことがきっかけで、ものづくりの魅力に引き込まれ、日本工学院北海道専門学校の建築学科に進学しました。

同校で、建築計画や材料、構造力学など、建築について多くのことを学ぶ中で、工場や倉庫などの大型建築物、一般住宅、店舗などの屋根や外壁などを工事する建築板金工事に興味をもつようになりました。

周囲には、建築現場を指揮する現場監督の職に就く友人もいますが、自分に合うのは、職人としての仕事ではないかと感じたのです。

社長との面接は緊張しましたが、とても気さくな方だったので、お話しているうちに緊張もほぐれ、建築への思いを伝える



▲日本工学院北海道専門学校で優れた技術と知識を習得

ことが出来ましたし、内定をいただいたときには両親や周囲の友人も自分のことのように喜んでくれたので、とてもうれしかったですね。

今年は、国家検定である建築板金技能士の合格に向け、働きながら勉強し、技術を身に付けることが目標です。

そして、その技術を生かして工事などを行うことで、登別に住む方の暮らしの役に立ちたいと思っています。

学校の様子や歴史を新聞で伝えていきたい

文章を書くことが好きだったので、1回生（中学1年生にあたる）のときに新聞局に入局しました。今年で新聞局員歴5年になります。

新聞局は、学校で開催した行事などについてインタビューなどの取材をもとに記事を書き、新聞として年間50号ほど発行しているのですが、みんなに校内の出来事を伝えるだけでなく、学校の歴史を記録し、次の代につないでいくという役目も担っているのです。日々、レイアウトや記事の書き方を勉強して、より良い新聞を作るように心掛けています。

これまでは、いろいろなことを教えてもらう側でしたが、先輩が引退し、自分が局長として後輩たちを主体的に引っ張って



新 学年

北海道登別明日中等教育学校5回生
新聞局・局長

猪股隼平さん

平成28年8月から新聞局の新局長を務める。同局は、同年11月に開催された『第60回全道高等学校新聞コンクール』（北海道高等学校文化連盟主催）の手書き・ワープロ部門で奨励賞を受賞。



▲わかりやすい新聞づくりのため、毎日のように集まり熱のこもった意見交換を行う編集会議

いくことになりました。

後輩たちが自分と一緒に一生懸命に新聞を作ってくれることがとてもうれしいですし、代々の先輩たちに恥ずかしくないように、先輩たちが紡いできた新聞局の歴史をみんなのでつないでいきたいと思っています。

来年は受験も控えています。局長として新聞局を盛り上げていきたいです。